

1 学年美術科学習指導案

授 業 者 工 藤 房 子

- 1 日 時 平成 16 年 10 月 5 日 (火) 第 5 校 時
- 2 学 級 名 1 年 1 組 (男子 21 名、女子 17 名、計 38 名)
- 3 主 題 さ ま ざ ま な 色 と の 出 会 い 表 現 ・ デ ザ イン

4 主題について

(1) 題材について

学習指導要領には、デザインや工芸などに表現する活動として、「ア 形や色彩、材料、光などがもたらす性質や感情を理解し、機能的な生かし方を考え、美的感覚を働かせて美しく構成したり装飾したりすること(一学年)」とある。世の中は色彩にあふれ、好きな色の物を手に入れることも比較的自由である。そんな中で系統的に色彩を学ぶことは、日常的に色彩に対する感覚を意識的にしてゆけると考える。この題材では色彩の豊かさと規則性に気付かせ、更に基礎的な技術を身に付けさせたい。そうすることで色彩への気付きも多くなり、美的な感覚を豊かにできると考える。デザインの要素である構成については抽象的な分割での構成とし、配色によって形の見え方が変わっていく色彩の面白さに重点を置きたいと考える。

(2) 生徒の実態

生徒は授業に前向きであり、自分らしさをだそうとする傾向がある。成長の違いで女子の方が落ち着いて取り組み、自分にも厳しい。男子は全体にゆったりとして、理解や作業が遅めで早とちりがある。特に学習の理解や定着の遅い生徒が男子に数名いるので、個別の指導が必要である。生徒はこれまでに観察画、レタリング、描画の学習をしてきた。絵の具で描くと失敗したという生徒の経験から、特に絵の具の水加減や溶かし方、筆使いを指導し、不透明彩色技法での成功感を得させたい。

(3) 指導の構想

色彩の理論の中では言葉の理解だけ偏ることなく、感動を伴うこととして指導し、生徒の意欲を高めたい。そのため、生徒作品や身近な物事を取り上げるなどし、色彩の面白さや不思議さを伝えたい。また、表現の条件を示し選択させ、生徒自身が明確な課題を持って表現し、見直し発展できるよう指導したい。

色彩の組み合わせによって思いがけない表現になることが少なくない。その意外性を失敗感としてというより色彩の可能性と受け止めさせ、制作を継続させ完成させた成功感を感じ取らせたい。生徒数が多いというよさを、材料の準備や作品の多様性の認め合いということに生かしたい。

5 題材の目標

- (1) 色彩に関心をもち、表現する喜びを味わう。 【関心・意欲】
- (2) 混色を加減してさまざまな色をつくり、効果的に表す。 【表現の技術】
- (3) 自分らしいイメージに合わせて配色を考える。 【創意工夫】

6 指導計画

- (1) 身のまわりにある色が豊かにあることを感じ取ることができる。 1 時間
- (2) たくさんの色に法則があることを知ることができる。 1 時間
- (3) 色を組み合わせでデザインすることができる。 本時 (3 / 5) 5 時間

7 本時について

(1) 本時の目標

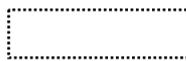
- ・ 色相の組み合わせのおもしろさに関心をもち、イメージに合わせて配色を考え決めることができる。

(2) 研究主題にかかわる本時の構想

色彩の学習の最終的な段階である。これまで学習したことを生かし、制作の意欲を増やせるような指導が肝心と考える。色相の組み合わせで生まれる印象を日常の服の配色で考えさせることで、学習課題の理解を高め、配色の意欲を引き出したい。組み合わせのイメージのこぼれを選択させることで、自分らしい配色の方法を決めさせ、課題解決の見通しをもたせる。形のデザインの後、色鉛筆や配色カードで具体的に課題追求に向かわせたい。



: 学習課題



: 予想される生徒の反応

意：関心・意欲 創：創意

段階	過程	学習活動	指導上の留意点	評価の場面と 具体的評価規準	教材・ 教具
導入 15分	課題づくり	1 前時を確かめる。 『無彩色と一色相のデザイン』の作品を見て、よさを確かめる。 ・着色が丁寧だときれいに見える。 ・みんなちゃんとつくっている。 ・混色の加減によっていろんな色がある。	<ul style="list-style-type: none"> 同じクラスの生徒作品を見せ、生徒の自信と意欲につなげる。 着色の技術（ソース程度の溶かし方・一色一度・筆使い）を振り返らせる。 		生徒作品
		2 課題を理解する。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 学習課題 色相の出会いを楽しもう </div> <ul style="list-style-type: none"> 色相の組み合わせの違う服から受ける感じとイメージの言葉「さわやか、陽気、元気、にぎやか」をつなぐ。 無彩色を使う効果を確かめる。 にぎやかな印象が、やさしい・落ち着いた印象になる。	<ul style="list-style-type: none"> 服の配色から、色彩を身近なものとして意識させる。 近い色相、遠い色相の組み合わせ、多くの色相の組み合わせの効果に気付かせ、色相を組み合わせるおもしろさを感じ取らせる。 明度の違いの効果を意識させて、無彩色の使用を条件にする。 「自分はこうしたい」という思いをもたせる。 		
展開 30分	課題解決の見通し 課題追求	3 作品のイメージと形の計画をする。 ・学習シートで自分が望む色相の出会いを選択し、イメージを言葉であらわし、色相を決める。 ・方形を自由に分割し、イメージに合う形のデザインを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 初期の発想を大事にして選択させ、イメージの言葉は例以外に考え出した場合にも、色相の組み合わせとの関係を確かにさせる。 固有色にとらわれないように、抽象的な形を考えさせる。 はじめて配色カードを使うので、それ以外に色の可能性があり、あくまで補助的に使うことを伝える。 実際の色を使いながら、新しい出会いにも気付かせる。 生徒自身の考えや思いを確かめ、よさをみとめる声かけをする。 	創：イメージに合わせて配色を考え決めることができる。	学習シート 色鉛筆 配色カード
		4 配色を考える。 ・実際の色や配色カードでどのような色をどこに決めるか考える。 ・おおよそ決まった段階で画用紙に描く。			
終結 5分		5 まとめ ・他の生徒が考えた作品を鑑賞する。 ・自分の学習を振り返る。 6 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> 他の生徒の作品を鑑賞し、自分の学習を振り返らせる。 次の予定と準備を伝える。 		

<美術科 1 学年・さまざまな色との出会い>

題材の学習活動と具体の評価規準

題材の目標 色彩の豊かさに気付き、味わい、その基礎的な知識を生かしてゆたかに表現する技術を楽しく身に付ける。

月	学習活動		評価規準	十分満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	努力を要する (C)
1	身近にたくさん色が豊かにあることを感じ取る。	意鑑	古い時代から生活の中で使われている色の豊かさに気付き、関心をもっていく。 さまざまな作品から色彩の豊かさや表現の多様さを感じ取ることができる。	古い時代から生活の中で使われている色の豊かさに気付き、関心をもっていく。 さまざまな作品から色彩の豊かさや表現の多様さを感じ取ることができ、積極的に鑑賞していこうとする。	古い時代から生活の中で使われている色の豊かさに気付き、関心をもとうとする。 さまざまな作品から色彩の豊かさや表現の多様さを感じ取ることができる。	具体的な例を実際に見せる。
1	たくさん色に法則があることを知る。	意	色彩の造形的な要素を理解し、積極的に関わっていこうとする。	色彩の造形的な要素を積極的に発見していこうとし、その仕組みを制作や物を見る姿勢に取り入れていこうとする。	色彩の造形的な要素をわかり、関わっていこうとする。	理解の間違いを巡視により訂正していく。
4	色を組み合わせ、デザインする。	意技創	色彩の組み合わせの美しさに関心を持ち、表現する喜びを味わおうとする。 混色の仕方を工夫してさまざまな色をつくりだすことができる。 イメージに合わせて配色を考え決めることができる。	色彩の組み合わせの美しさに関心を持ち、自分らしく表現する喜びを味わおうと継続することができる。 絵の具や道具を効果的に活用して制作できる。 混色の仕方を工夫してさまざまな色をつくりだし、作品に生かすことができる。 イメージに合わせて配色を考え決めることができる。	色彩の組み合わせの美しさに関心を持ち、表現する喜びを味わおうとする。 道具をていねいにあつかうことができる。 混色して目的にあうさまざまな色を作り出すことができ、作品にいかそうとする。 イメージに合わせて配色を考えようとする。	良さを指摘し、意図を確認して指導する。
1	自分や仲間の良さを認め合う。	鑑	色彩の美しさを感じ取り、美術を愛好しようとする。 友達の良さや自分の良さを認め合おうとする。	色彩の効果による美しさを感じ取り、積極的に美術を愛好していこうとする態度がある。 他者の作品に関心を持ち、良さを認めあおうとする態度や行動ができる。	色彩の美しさを感じ取り、美術を愛好していこうとする。 自分や他者の作品の良さを認めあおうとする。	自分や他者の作品を大切に扱わせる。